

(様式2)

令和1 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100010		
法人名	社会福祉法人豊寿会		
事業所名	グループホームながば さくら棟		
所在地	新潟市北区長場字土居下1282-1		
自己評価作成日	令和元年8月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	2019年9月12日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは入居者様がグループホームを自分の家と思い、快適に過ごして頂けるよう取り組んでいます。ホームの中に留まらず、四季を感じられるよう、また「〇〇に行きたい」と発言があれば、出来るだけ実現できるよう職員一同心がけております。時間に捉われることなく、自由な時間を活用して楽しい表情が多々見られるように今後も取り組んでいきたいと思ます。

事業所は農村地帯の自然豊かな環境に立地しており、事業所のリビングから見える近くの田んぼや木々に四季を感じることが出来る。居室は十分な広さがあり、利用者によっては使い慣れた椅子やタンス、冷蔵庫の他、家族写真など大切なものを持ち込んで本人と家族でレイアウトし、本人が落ち着ける空間づくりをしている。

法人の「安心・安全・あったかい心」という理念に基づく職員の志とスローガンを作成し、事業所職員は日々のケアの拠り所としている。開設当初から利用者の意向をできるだけ受け入れ、重度化が進み介護度が高くなっても事業所での生活を継続したい利用者には、できるだけ意向に沿うように本人や家族と話し合いながら必要なケアの提供に取り組んでいる。また、家族等から入居前の生活情報を得るなどして、趣味や習慣ができるだけ継続できるような環境整備にも努めている。

地域との関係性を高めるため、自治会に加入してコミュニティセンターとの関係構築や運営推進会議の活用等を通して事業所の情報発信や地域の情報収集をしている。それらの情報を利用者支援に結びつけ、歌声喫茶やコミュニティセンターの文化祭への作品出品など、地域の催し物に積極的に出かけたり、地域の防災訓練に利用者と一緒に参加している。

また、踊りのボランティアや神楽舞のボランティア等の受け入れや、地域の中学校の体験学習や保育園の園児の訪問を受け入れるなど地域との交流に努めている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安全・安心・あったかい心」の理念を全職員が共有し、理解し、より身近な存在になるグループホームを目指している。	平成30年度に理念に基づく職員の志とスローガンが本部で作成され、カードサイズにした物を個々の職員に配布して共有化を図る取り組みを実施してきた。共有化した理念やスローガンを実践につなげるために、法人職員全体会議等を活用するなど話し合いの機会を定期的に行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練、コミュニティイベントに参加している。地域の一員として交流しており、近隣の散歩でも挨拶を交わす等している。	地域の一員として自治会に加入し、地域の防災訓練や地域のコミュニティセンターの催し等に参加している。また、地域の保育園の園児や中学校の職場体験実習等の受け入れなどにも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中に事業所はあるが、地域の方の為に活かしかれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議にて情報交換やサービス向上に向け、話し合いをしている。その際の意見をその後のサービスに繋げている。	運営推進会議は2か月に1回開催しており、事業所の運営状況について報告、意見交換を行っている。また、地域の情報を得たり、他事業所の取り組み状況などの情報交換を行い、会議で出された意見等は運営に活かしている。	運営推進会議は定期的に行われ、会議のさらなる活性化に向けて取り組んでいるところである。現在は利用者・家族といったサービス利用当事者の参加がない状況であり、今後は、利用者・家族の参加に向けて働きかけを行う取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に包括支援センターの方に参加して頂いている。事業所の事情等を伝えながら協力を築くように取り組んでいる。また、相談したり、助言を頂いたりしている。	地域包括支援センターとの連携を重視しており、日頃から運営上の困りごとを相談して助言をもらうなどしている。市町村には、普段から必要に応じて事業所の空き情報や待機者の状況などの報告や運営上の相談を行って助言をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないという意識を持って、ケアに取り組んでいる。外へも自由に出入されるよう施錠はせず、外出された利用者がいた際は、職員も一緒に外出している。	法人で「身体拘束廃止指針」を定め、身体拘束廃止委員会を設置して定期的に話し合いを行っている。身体拘束について、職員は身体拘束はしないという共通認識で利用者支援に取り組んでいる。研修計画にも盛り込み、毎年、内部研修で実施している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を実施し、全員が虐待防止に努めている。	法人で虐待防止マニュアルを作成し、職員間でそれを共有している。毎年計画的に研修を実施しており、介護の場面等で不適切な対応がないように、虐待の種類や内容の認識を深めたり虐待を発見した場合の対応等について周知している。また、職員のストレス軽減のために定期的な面接を行って話を聴いたり、勤務上の配慮をするようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上司のと話し合いや職員同士で学ぶ機会を持ち、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、きちんと説明し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時のアンケートや、年に1回サービス向上委員会の利用者・利用者家族へ向けたアンケートの実施を行ない、できる限り意見、要望に応えられるように取り組んでいる。	日頃の会話の中から利用者の意向を把握するようにしている。数項目に絞ったチェック式アンケートがついた面会用紙を活用して家族等の意見を把握する仕組みを設けている。法人に設置されているサービス向上委員会で年に1回利用者・家族アンケートを実施し、必要に応じてその結果を事業所に伝えることにより、利用者の意向や家族の意向を運営に反映させるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の個人面談や上司との話し合いで意見や提案をする機会を設けている。現場の疑問等は皆で考え、検討する機会を設ける様にしている	利用者支援に係る検討事項は、連絡ノートに記載しており、申し送り時やユニット会議、法人の全体会議等で話し合いがなされる仕組みとなっている。また、年2回法人本部と管理者とが職員個々と面談する機会があり、その際にも要望や意見を伝えることができるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談での話し合い、各自が向上心を持って働けるような環境や条件の整備に努めている。 また、面談等にて不安を聞いてもらう事で働きやすくなる様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修により、スキルアップの機会を設けている。また業務の中で助言や指導を行っている。外部研修の斡旋も行い希望者は参加出来るよう業務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加する事で、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。地域包括ケア会議に参加し、地域密着型の事業所の方から多くの情報を得ている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族等の協力を得て情報収集をしたり、本人の話に耳を傾ける事により、本人の安心感を確保し、良好な関係作りに努めている。本人様の訴えに耳を傾け、希望をできるだけ叶えられる様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等との話し合いで困っている事等を傾聴し、適切なサービスを行なう事で、不安が解消されるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の希望も含めたサービスの対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つ屋根の下で同じ時間を共有している事を理解し、一緒に出来る事は共に行き、楽しい事も共有している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に協力し、本人を支えていける関係となっている。面会時に近況報告を行ったり、行事にお誘いし、一緒に楽しめる機会を設けている。	利用者の生活の様子は面会時や行事等の際に随時家族へ報告している。かかりつけ医への定期受診付添いの際の外出や事業所主催の行事への参加依頼など、家族との交流を深める取り組みに努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、馴染みの環境を大切に支援できるように努めている。また、お友達等が気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りをしている。	入居当初から知人等が気軽に訪問できるような雰囲気作りに取り組んでいる。希望があれば、家族の協力を得たり、必要に応じて職員が送迎するなどして行きつけの美容院等へ行くなど、馴染みの関係が継続するように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに支え合ったり、関わり合うことにより、良い関係ができています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを密にし、思いや希望、意向を把握し、職員全員で叶えられる様に努力している。	日頃から利用者との会話の中で希望や意向を把握するようにしている。事業所の行事や外出等への参加希望を聞き、できる限り個々の利用者の意向に沿うように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし等を把握し、一人ひとりに合ったケアを行なっている。	入居時に居宅のケアマネージャーや家族等から生活歴や生活環境、これまでの暮らし方等を聴き取り情報を整理しており、入居後に家族等から得た新しい情報は記録に残すようにしている。それらをもとに個々の利用者の趣味等好きなことが継続できるよう環境整備に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状を把握し、本人に合った生活のリズムで過ごして頂ける様、努めている。ご自身のペースを大事にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員、ご家族、本人の意見を反映し、介護計画を作成している。	介護計画は、担当職員が所定のシートに職員等関係者の意見を集約し、計画作成担当者が中心となって原案を作成している。原案はユニット会議で職員から意見をもらって修正等をし、利用者・家族が参加するサービス担当者会議を経て作成される。介護計画のモニタリングは定期的に行われ、原則6か月ごとに見直しが行われる仕組みとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を記録に残し、全職員が情報共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で対応し、相談、実行できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で情報収集し、安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、主治医との連携をし、適切な医療を受けられるようにしている。	入居にあたって利用者・家族は、協力病院または入居前からのかかりつけ医の選択をすることができる。かかりつけ医への定期受診の際は家族の付き添いを原則としており、事業所が本人の健康状態を書面にして家族経由で医師に報告し、受診結果も報告してもらうようにしている。協力病院には往診を依頼したり、急を要す場合は職員同行で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状態、変化を見逃さず、法人内の看護師に伝え、指示を仰いでいる。週2回の看護師訪問時や電話で報告、相談している。必要であれば、早急に受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努め、安心して治療を受けられるようにしている。また、適宜面会する等、病院へ足を運んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針を本人、ご家族に説明し、納得して頂いている。また、提携先の病院などへも情報を伝えて対応に誤りがないようにしている。	事業所として「入退居指針」を整備しており、入居時に重度化や終末期の対応について説明をし、看取りケアは出来ないことを伝えている。また、重度化や要介護3と認定された時点で他の適切な入所施設等への住み替えの検討をお願いしている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応は会社内の研修等で、定期的に行っている。また、マニュアルを確認し、実践力を身に付けている。	緊急時の対応については、「事故防止及び事故発生時対応マニュアル」が整備されており、AEDも導入されている。心肺蘇生法やAEDの操作訓練も含めて事業所内で定期的研修が行われている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、災害に備えている。地域の防災訓練にも参加し、地域の協力体制もできている。	事業所として、火災・地震・水害等を想定したマニュアルを整備しており、年3回定期的に火災・地震・水害を想定した避難訓練を実施している。災害時の食料等の備蓄もリスト化して職員間で共有し、非常時の発電機も設置している。また、隣接のデイサービス事業所との年1回の合同避難訓練や、毎年実施される地域の防災訓練にも職員・利用者ともに参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉遣いや対応をしており、プライバシーの確保にも努めている。また、一人一人の言葉に耳を傾け、話を聞くようにしている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を心掛けている。また、入浴や排泄介助は、同性介護を基本として、プライバシーへの配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、自己決定が出来るよう支援し、本人の思いや希望を話しやすい環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合ったペースで過ごして頂けるよう、支援している。利用者様の家であるため、職員がペースを乱す事のないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、整容をして頂き、身だしなみに気を配っている。外出の際は、その場に合った服装に着替えて頂いている。その人らしさを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事の準備、食器洗いや食器拭きなどの出来る事をして頂いている。また、行事などで一緒に食事作りや準備を行っている。好みに合わせて味付けを工夫している。	食事に季節を感じてもらえるように、プランターで育てた旬の野菜を献立に取り入れるなど工夫をしている。時には、近所から頂いた柿や梅で利用者と一緒に干し柿や梅酒づくりをしている。利用者には食事の盛り付けや、テーブル拭き、食後の食器洗いなど役割を決めて職員と一緒にしてもらっている。また、食器は利用者一人ひとりが自身の好みの物を使っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事、食事量や水分量を記入し栄養バランスや水分量の確保に努めている。また、自身で食べれない方には介助したりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い口腔状態の把握に努めている。また、必要者には入れ歯洗浄剤による消毒を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、必要に応じた声掛けや誘導を行かない、自立に向けた支援をしている。なるべくトイレにて排泄して頂けるよう支援している。	基本的にトイレで排泄ができるように、利用者の状況に合わせて排泄表を活用したり利用者の様子から判断し、適切な声掛けでトイレ誘導を行っている。それにより、実際リハビリパンツ等が不要になった利用者が数名あるなど実績がみられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師に相談しながら下剤のコントロールを行っている。水分、体操など個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、入浴して頂いている。受診や拒否などにて入浴日を変更することもある。	利用者個々の希望や、その日の状態と予定に合わせて入浴を週2回午前中に実施している。また、利用者の好みによって入浴剤等を活用するなど、入浴を楽しんでもらえるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、体調に応じて居室にて休んで頂いている。昼夜逆転を防ぐ為、日中帯は出来るだけレクリエーションにて身体を動かして頂く様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で一人一人の薬を理解し、服薬の支援と症状の変化を見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事など本人の力に応じた役割を行って頂いている。体調に配慮して無理の無いようお願いしている。生活歴を参考に楽しく生活して頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事や日々の買い物、散歩などにて外出して頂いている。出来るだけ希望にそった外出が出来るように支援している。	日常的には、天気が良い日は近所を散歩するなどしている。できる限り利用者の希望に沿った外出支援を心掛けており、個々の利用者の日用品購入のための外出や誕生日外出、春のアヤマ見物や秋のブドウ狩りなど季節の外出行事にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ出かけた際には好きな物を選んで頂き、預かっているお金でご自身でお金を払って頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からかかってきた際に、本人と代わって会話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がゆっくと過ごせ、暮らしやすくなる様に配慮している。季節感を取り入れた物を飾ったり、行事などの写真等を飾っている。	共有空間は、利用者がゆったり快適に過ごせるように、こまめな室温調整がなされている。廊下は広く天井も高く開放感があり、天窓からの十分な採光で明るい。リビングは、畳のスペースとフローリングのスペースがあり、壁面には行事の際の写真や、利用者と一緒に作った季節を感じる事が出来る作品が飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所の工夫などで思い思いに過ごして頂ける様に工夫している。また、テレビや新聞を見ながら利用者同士で会話を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や小物を持ってきて頂き、居心地よく過ごして頂ける様にしている。	居室は、フローリングの床の部屋と、フローリングのスペースと畳敷きのスペースのある部屋がある。各居室とも十分な広さで、利用者によっては使い慣れた椅子やダンス、冷蔵庫などの他、家族写真など大切なものを持ち込んで本人と家族で自由にレイアウトし、本人が落ち着いて過ごせる空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が安全で出来るだけ自立した生活が送れる様に支援している。各居室やトイレ、お風呂の場所は目印をつけ分かりやすい様にしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				